

販路開拓へ若い感性

県信連と松山大ゼミ 連携授業始まる

松山大のゼミ生対象の遠隔授業で
自社商品の説明をする楽農研究所
の菊地義一社長＝8日夕、松山大



若者の感性を商品販売の現場に生かそうと、県信用農業協同組合連合会（県信連）と松山大経営学部ゼミによる連携授業が8日、松山市文京町の松山大で始まった。新型コロナウイルスの影響で遠隔授業となったが、生産者と学生が顔合わせし、協力を約束した。

ナノの感染拡大を避けるため当面遠隔授業とし、ゼミ生21人が4グループに分かれてネットの活用法や新商品の提案に力を注ぐ。

経営学部の芳賀英明准教授（33）＝消費者行動論Ⅱのゼミは2019年、県信連と協働事業書を締結しており、20年度のゼミ生は、県内産の果実を使いジャムなどを生産販売する会社「楽農研究所」（内子町）のインターネットを使った販路開拓に向けたアイデアなどを提案する予定。新型コロナウイルス

授業では芳賀准教授が概要を説明後、楽農研究所の菊地義一社長（44）が県内産果実にこだわった生産の仕組みや、数十種類あるジャムやコンポートの中での売れ筋商品を紹介。その後、グループごとに意見交換した。

授業は30回を予定しており、菊地社長は「消費者目線からの意見が新鮮だった」と今後の展開を期待。芳賀准教授は「コストなど生産者の知識を身に付け、成長につなげてほしい」と願っていた。（宇和上翼）

（宇和上翼）